

平安時代後期の井戸 SE3-25

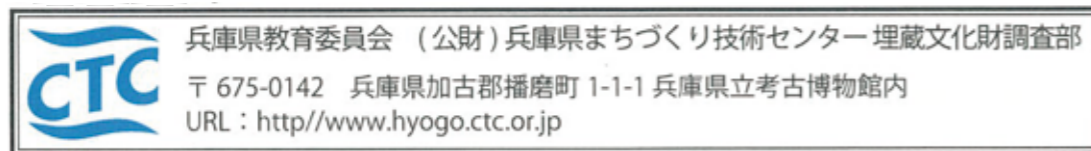
掘形は直径約2.8mの井戸で、井戸枠は直径約50cmの曲物を5段積み重ねています。井戸枠の底には、杭を打ち、井戸枠が動かないように止めてありました。遺物は、掘形から「咄天罌(符籙)」と書かれた呪符木簡及び、楠葉型瓦器椀、須恵器、土師皿などが出土しています。遺物から11世紀後半～12世紀前半ごろに作られた井戸と考えられます。また、掘形の大きさに対し、井戸枠の大きさが非常に小さいという特徴があり、井戸を掘りなおしている可能性を指摘できます。



平安時代後期の井戸 SE3-25(南から)、井戸枠、呪符木簡、瓦器椀出土状況

まとめ

- 古墳時代の溝(土器溜まり)、土坑を調査区西側で検出しました。昨年度のB区南側の調査でも同時期の遺構を検出しています。そのため、B区南側及びE区西側から現在の集落にかけて古墳時代初頭の集落があったと考えられます。
- 古代の遺物では、古大内式軒丸瓦や、見野廃寺と同じ型の軒丸瓦、緑釉陶器、墨書土器、土馬など官衙に関わりのある遺物が出土しています。8世紀前半に編纂された『播磨国風土記』飾磨郡の条には「美濃里 継潮」との記述があり、「潮」に関する施設の可能性を指摘できます。
- 今年度の調査区は、昨年度の調査区(A区、B区)に比べ遺構数も少なく、溝からは廃棄したと考えられる大量の遺物が出土しています。そのため、集落や官衙関連建物群の縁辺部の廃棄場所であったと考えられます。
- 平安時代後期の井戸で出土した遺物のうち、楠葉型の瓦器椀は、京都府八幡市の石清水八幡宮と関係する場所で出土すると指摘されています。この地は、石清水八幡宮の荘園であったことが知られており、当地と石清水八幡宮との関係を考古資料でも立証できます。



のぼりた

登り田遺跡 E区発掘調査説明会資料

はじめに

(公財)兵庫県まちづくり技術センターでは、兵庫県教育委員会から委託を受け、八家川調整池の整備予定地である姫路市継地区において、4月より登り田遺跡の発掘調査を行っています。今回、現地説明会をおこなうのは昨年度発掘調査をおこなった調査区の南側(E区)約10,000㎡となります。

調査では、古墳時代初頭の土坑及び溝、古代の井戸、掘立柱建物跡、溝を確認しました。溝の中からは、各時期の土器を大量に廃棄した土器溜まりを検出しました。また、溝の一部では古代の護岸施設を確認しました。



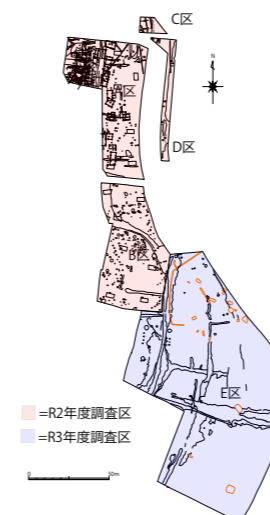
登り田遺跡周辺の遺跡。 3km



古墳時代初頭の土器溜まり(北から)



調査区全景 東から継の集落を望む



古墳時代初頭の遺構

調査区北西で土坑及び溝に伴う土器溜まりを確認しました。昨年度調査区B区南側からも古墳時代初頭の土器が約40点出土した素掘りの井戸、土坑などを確認しています。昨年度調査区B区南側及び今年度調査区E区西側から現在の継の集落にかけて、古墳時代初頭の集落があったと考えられます。

E区遺構配置図



古墳時代初頭の土器溜まり(東から)



奈良時代の井戸(南から)



古代の掘立柱建物跡(北から)



見野廃寺と同型の軒丸瓦



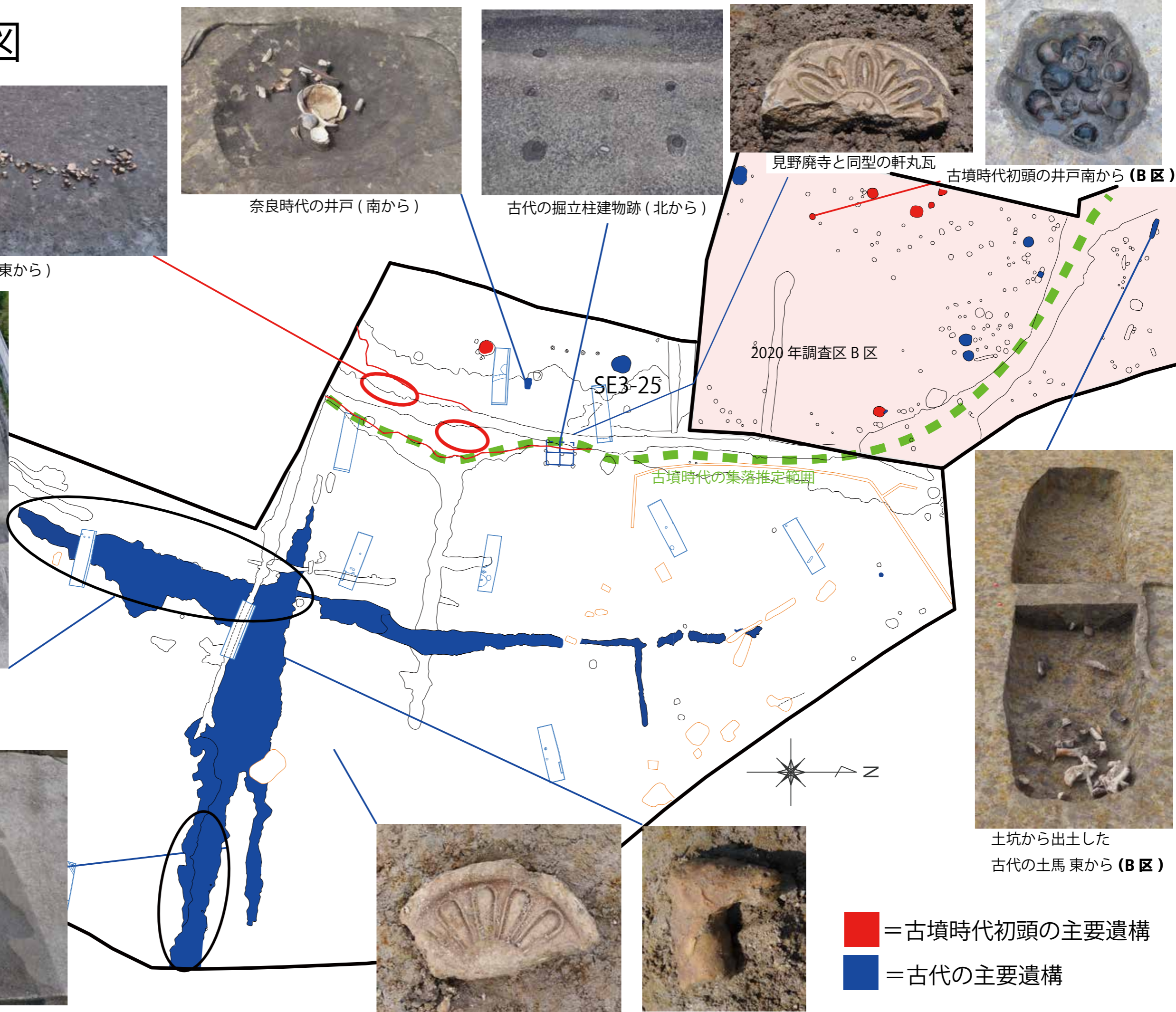
古墳時代初頭の井戸南から(B区)



古代の溝と土器溜まり(北から)



古代の溝と護岸施設(西から)



SE3-25

2020年調査区B区

古墳時代の集落推定範囲



土坑から出土した
古代の土馬 東から(B区)



古大内式軒丸瓦出土状況



土馬出土状況

- = 古墳時代初頭の主要遺構
- = 古代の主要遺構

0 20m